



福島幼稚園の取り組み

心躍る秋の直接体験

見る！触れる！食べる！

秋の自然を満喫♪麻場城址
～年少・ひよこ組

「ふわあ〜。きれい〜」目の前に広がる景色に感動の声。「やまびこさ〜ん」「まねっこさ〜ん」いつもの歌でやまびこ体験。「やまびこさ〜ん」「まねっこさ〜ん」本物のやまびこに「か〜ん！」「おもしろいね〜」と大喜びの子どもたち。



やまびこさ〜ん♪



まねっこさ〜ん♪

次は、いざ冒険のおもしろ体験！くっつき草に芝滑りは、くっつける、投げる、滑る体験。赤や黄色に色づいた落ち葉のシャワーは、体いっぱい浴びたり、友だちにかけてあげたりする体験。高台の細道をドキドキしながら歩くのは、普段味わえない土手歩き体験。「楽しかったね！」「また行きたいね」秋の自然を満喫した一日でした。



琴に初挑戦！

初めての音色にうっとりとお琴鑑賞会♪年中・かなりお組

「やぐら」の音色から始まったお琴鑑賞会。初めて見る琴とその雰囲気にし緊張した様子の子もたち。琴の先生から種類や大きさ、弦の数について教えてもらい、「どうさん」「とんぼのめがね」「ドリミのうた」「やぎさんゆづびん」など、



お母さんたちも挑戦！

童謡や子どもたちになじみのある曲と一緒に歌ったり、口ずさんだりするうちに和んだ空気になりました。演奏終了後は、琴に挑戦！三人の先生に教えてもらい、嬉しそうに弦を弾き、音色を楽しみむ姿。「もっとやってみたい」そんな声も聞こえてきました。最後は保護者も琴に挑戦！「初めてです」「ドキドキです」など感想を話しながら、日本伝統の音色にうっとり。すてきなひとときでした。

提言

寛大な子どものころ



甘楽町公立幼稚園
PTA連絡協議会
会長 加藤 啓子

幼児と接する機会など、ほとんどないまま生きてきた私にとって、初めてのわが子はまるで「別の星からきた生命体」みたいなものでした。

この生命体には、日本語が通じません。どうして泣くの？どうして泣き止まないの？何が欲しいの？何をしたいの？息子が小さかったころ、私の頭の中には毎日「どうして？」の嵐が吹き荒れていました。とにかく、分からないことが多すぎる。子どもの感情も欲求も行動も。伝わらないことが多すぎる。自分の感情も要求も、大人の世界では当然だった「相互理解」という前提が全く通用しない生き物…。

どうして私は笑顔で子育てできないんだろう。にこにこ、やさしいお母さんが理想だったはずなのに…。

ただ気づいたことがあるんです。同じことを何度言っても分かってくれない、その幼い心で、子どもは私の失敗を許してくれているんだってことです。今は言い過ぎたかも、八つ当たりしちゃったかも…。そんな私を子どもは決して責めたりしない。抱きついて一緒にいたいと言ってくれる。当たり前のように笑ってくれる。子どもは大人に全力で甘えてくるけど、大人だって、そんな彼らに甘えているんですね。

さて、4月に小学生になるわが子は、さすがに地球人へ昇格を果たしました。でも、ありがたいことに、心はまだ広いようです。私もわが子が大切でどんなときでもオンリーワンで、子どもの成長はうれしいはずなのに、周りの子と比べて見逃してしまう小心者です。できるだけ子どものような広い心でわが子の成長を見守りたいと思います。

楽しく収穫♪さあ何作る？
年長・つばめ組

年長児は毎年、園の畑や園庭の端でいろいろな野菜を育て、収穫しています。

旬の食材であるサツマイモ。どんな料理にしたいか、サツマイモの絵本を見ながらの話し合い。「焼きイモしたい！」「大学イモ好き！」「ワクワクする言葉が飛び交う中、全員が「スイートポテト」に賛成。「材料は？」「砂糖・卵・



ワーッ!! おおきーい!!



おいしくなーれ!



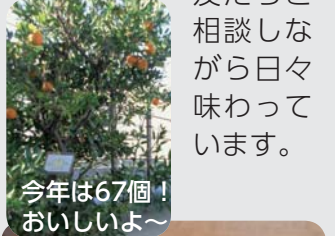
スイートポテトのできあがり♪

黒ごま・バター」が必要とわかり、次に作り方を教えると、期待が高まり、待ちきれない様子の子もたち。

簡単な作り方ですが、卵黄や黒ごま効果で本格的なスイーツになり、みんな大喜び！焼き上がったスイートポテトを食べながら「こんなおいしいの初めて！」とお腹も心も満たされたおイモパーティーとなりました。

園通信
園庭にあるミカンの木

「今日は何個食べる？」ミカンが色づき始めるとその大きさや数にも気付くようになる子どもたち。友だちと相談しながら日々味わっています。



今年は67個！おいしいよ〜



輪になって、いただきます!

福島幼稚園
園長 小澤由佳利
園児 36人

「教育のひろば」とは
各学校や幼稚園の特色ある取り組みを紹介する「コーナー」です。
編集委員は、教育委員会の広報委員会に所属する各学校や幼稚園の教員です。